2006.8
No.701
平成18年8月9日発行
岩手県●紫波町
〒028-3390 紫波町日詰字西裏23-1
担当/企画課 TEL:019-672-2111
印刷●川口印刷工業株式会社
ポータルサイト http://www.town.shiwa.iwate.jp/

SHIWA-NET

しわネット

● 特集

みんなが創造するまち

―紫波町協働を考える会議報告書から―

(仮称)紫波町市民参加条例

町に参加条例をつくろう委員会

町民の図書館をつくろう委員会

● 17年度

循環型まちづくり事業の成果

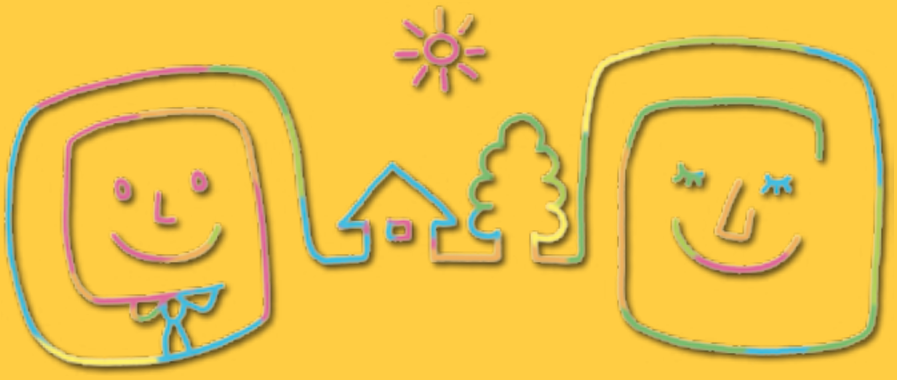
町はただいま花盛り

● まちの話題

料理を通じて和を感じる「男の食育講座」……12
釜石シーウェイブスが楽しさを指導……12
かとうじ山の音楽会……13
まちづくりボランティア「しわフェロー」の募集……15

行ってみよう！旬の野菜が並ぶ産直

……16



R100
古紙配合率100%の再生紙を使用しています。

町長からのメッセージ

一人ひとりが輝く町を目指して part2

当町は、「環境と福祉の町」を掲げてまいりました。

最初に福祉について申し上げます。事案が発生してから行政サービスを行うことで解決することもありますが、根源を解決することも必要です。「元気はつらつ紫波計画」や、「元気はつらつ高齢者計画」、「母子保健計画」などを策定することで町民の健康増進を図ってまいりました。その結果、介護を必要とする人が減少するなど、顕著な成果が出ており、国保会計や介護保険料の安定に寄与しているものです。

また、制度が年々見直しされ、高齢者にとっては厳しい状況になりますが、「いこいの家」事業など、地域で見守る居宅介護に努めていくことが求められています。

次に環境についてです。「循環型まちづくり」が定着し、事業が進んでいることは町民の協力の成果です。我々の住む地球は一つしかなく、その地球に負荷を加えるのではなく、限られた資源を大切に使う心掛けが必要です。また、景気低迷時には財政も含め、徹底した循環型地域経済の構築が必要であり、財政だけではなく、すべての事業に「循環型のまちづくり」の考え方を取り入れ、事業を進めてまいります。

昨年の満足度調査の結果、当町で最も満足度の低いのが「工業」でした。そこで今年度から、商工観光課として専門の課を設け、企業誘致と既存企業支援、起業支援に力を注いでいきます。

先日、町内の企業を訪問した際に、「従業員の募集をしても、町民の応募が少なく残念だ」と言われました。ぜひ、町内企業にも着目していただきたいものです。「ニート」対策も社会問題となっていますが、若年層の勤労意欲に変化が起きているようです。

誰もがやがては若年層に支えられる立場になるわけですが、若年労働者の意欲を引き出せる仕組みを作り、輝く町を目指してまいります。

藤原　孝

太鼓集団の熱い鼓動に酔いしれる

金山祭 —第18回—

言語の壁を越えるパフォーマンス。
確かな手ごたえをつかんだ、
オーストラリア公演。
大舞台で新たな成長を遂げた
佐比内金山太鼓の響きを感じてください！

ゲスト　大館曲げわっぱ太鼓「忍」組（秋田県大館市）

◆日 時　8月14日（月）午後4～9時

会　場　佐比内小学校グラウンド特設会場
（雨天時同校体育館）
主　催　佐比内金山祭実行委員会
後　援　紫波町、紫波町教育委員会
問合せ　佐比内公民館　☎674-2626
電子メール　kinzan7337@cronos.ocn.ne.jp
ホームページ　http://www15.ocn.ne.jp/~kinzan

『みんなが創造するまち』

私たちは、町民一人ひとりが
豊かな人生をおくるために、
自分たちにとって必要なことは何か
課題を自分たちのものととらえ、
自分でできることを選択し、
責任のとれる社会を
つくっていきたいと考えています。

紫波町協働を考える会議報告書から

理　　念

空・みどり・風が美しい町、紫波町に住む私たちは、子どもからお年寄りまで町民一人ひとりが健康で安心安全な町であることを願い、私たちみんなが自分たちで考え自分たちで創っていきます。

協働の考え方

私たち町民一人ひとりが大切なことは何かを自分で考え、話し合い、行動します。

役場は、私たち町民の活動が生活する現場にあることを認識し、開放的で対等な関係づくりをします。

役場は、町民と同じ目線に立ち、気軽に話し合えて信頼し合える関係づくりをします。

私たちは、役場の仕事に関わることができるように、ルールや仕組みを一緒に考えます。

役場は、いつでも誰でもどんなことでも町のことについて、話しやすい場をつくり、私たちは、自由な意思で参加し、本音で話し合うことで相互理解を深めます。

私たちは、実践や活動を通して学習し、理想の社会をつくる話し合いをします。

役場は、私たちが関心を持てるように、役場の事業内容を分かりやすく説明するなど、精度の高い情報と学習の場や機会を提供します。

町の望む協働は、町民の皆さんや町民の活動団体と役場、町民の活動団体同士との関係などで、それぞれの役割を担いながら、どういう未来が望ましいか町の姿を思い描くことです。

今回の報告では、それぞれさまざまな考えや意見があり、まとめきれなかったというお話でした。人それぞれが違う考え方を持っていることを尊重した結果でしょう。大事なことは協働という言葉の意味を考えることより、実際に町民の皆さんが主体となってどのような町にしていくのかを話し合うことであると受けとめました。

町民の皆さんが、企画段階から自分の考えで自由に参加できない状況で一緒に事業をするのでは、単に町の仕事を手伝っているということになりかねません。町民主体でまちづくりを行うためには、町民の皆さんがどのような場合においても、情報を自由に手に入れることができ、自らの考えで行動できてはじめて、町民主体と言えるのです。

そのためには、それぞれの活動の中で、町民が参加するための仕組みが必要であり、「参加条例」はその手段の一つと考えます。町民主体のまちづくりを進める目的のもと、制度で縛り付けるようなものではなく、やわらかな紫波の風土にあった、身の丈の条例を町民とともにつくっていきたいと考えます。

町長からの応答書より（抜粋）

協働を考える会議
（17年10月～18年1月開催）

（仮称）紫波町市民参加条例

これまで町では、町民の皆さんの地域活動やボランティア活動など、多くの活動を通じて皆さんとともにまちづくりを行ってまいりました。また、さまざまな施策について、皆さんからの意見を町政に反映させるように努めてきました。

こうした中で、町では、町の基本構想に掲げる「協働のまちづくり」の理念のもと、これまで以上に皆さんと町がより良いパートナーシップを築き、皆さんと共に知恵と力を出し合ってまちづくりを進めていくために、「（仮称）紫波町市民参加条例」の制定を検討しています。

町民主体のまちづくりのために

近年、地方分権が進められ、国や県からの事務や権限が委譲され、町が自らの決定と責任で進める独自のまちづくりが求められています。

このような中で、町の特徴を生かし、そこに暮らす人々が本当に望む町をつくっていくためには、町民が主体的に関わる参加と協働によるまちづくりが必要となります。

条例は、皆さんと町が共通の認識のもとで参加を進めるため、参加の手続きや方法を定め、皆さんが参加するために必要な情報を提供するルールを整えようというものです。

普段行っている皆さんの公益的活動と町の接点も考えていきます。

参加だけにとどまらず、真にみなさんと町がパートナーとして交流し、協働してまちづくりを進めていきたいと思います。

条例Q＆A

Q1 条例ができると何が変わるの？

A1 条例では、㊟パブリックコメントや審議会への参加など、皆さんが町政に参加する仕組みを整えることで、担当部課でバラバラに行われていた参加の手続きや方法が統一され、皆さんが参加するために必要な情報提供などがシステム化されます。皆さんの意見をより一層町政に反映させていくことができます。

Q2 なぜ条例が必要なの？

A2 皆さんが自主的に参加し、意見や提案ができるための条例です。一定の手続きの方法を整えることで、町民と町が共通の認識で進めることができるため、条例というかたちで明文化する必要があります。

Q3 どんなことに参加できるの？

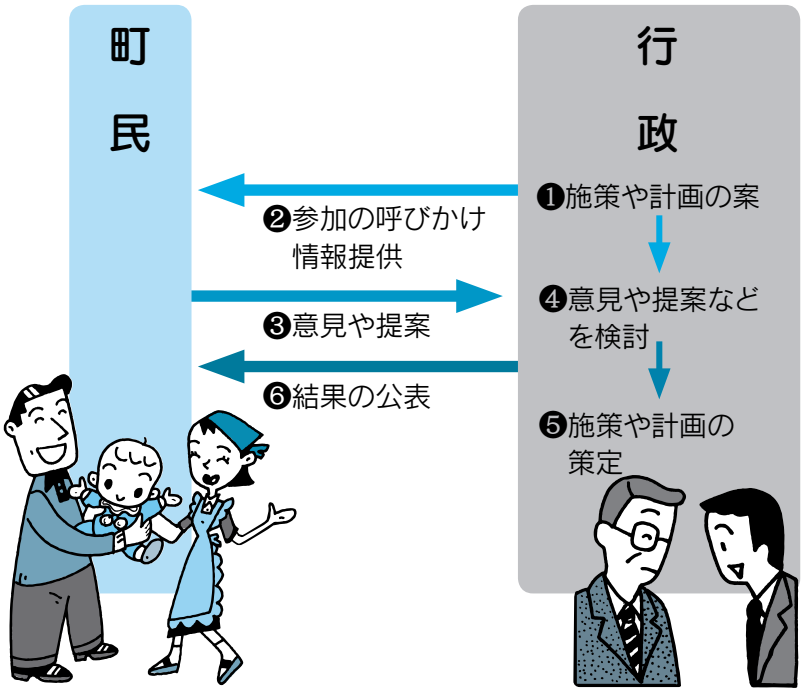
A3 例えば、総合計画や基本方針を定める場合、公共施設の建設計画を立てる場合など、これから皆さんの意見を聞きながら決めていきます。

Q4 どのような形で参加できるの？

A4 例えば、パブリックコメントや審議会、ワークショップなど、より良い参加の方法を皆さんの意見を聞きながら決めていきます。

㊟**パブリックコメント【public comment】**
町の計画や条例などを策定する過程で、素案を町民の皆さんに公表し、広く意見を求め、それを考慮して決定する一連の手続き。

●参加のあらまし



参加条例をつくろう委員会

参加条例をつくるにあたり町民の皆さんに直接参加していただき、一般公募の六人を含む十二人で「紫波町に参加条例をつくろう委員会」を発足させました。同委員会では、本年度中を目標に、町民の皆さんと行政の協働のまちづくりに向けた参加の基本ルールを条例という形で定めるための提言を行います。

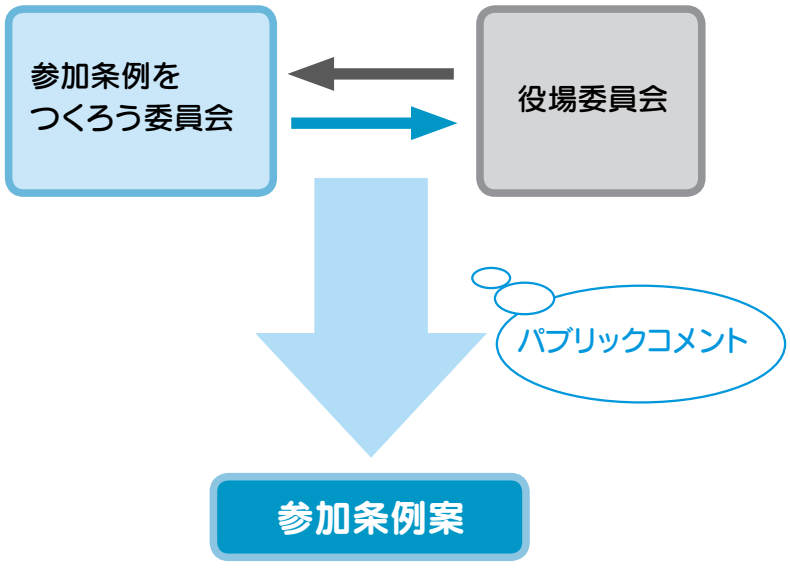
参加条例をつくろう委員会の様子

●18年度まちづくり座談会にて（旗揚げ方式アンケートによる）

質　問	○	×	他
わたしは、会議や話し合いのときに自分の考えを話せる	84	50	50
役場は、わたしたちの意見をよく聞いてくれる	47	25	112
わたしは、町の予算に関心がある	140	5	39
わたしは、町の計画づくりに関心がある	139	2	43
わたしは、町の施設づくりに関心がある	133	1	50
わたしは、町の条例づくりに関心がある	95	3	86

まちづくり座談会でアンケートに答える参加者

●参加条例づくりのイメージ



●参加条例をつくろう委員会のみなさん
（敬称略、50音順）

	氏　名	選出区分
	阿部 芙貴子	公募
	小笠原 悦子	公募
	小笠原 光世	行政区長協議会
	小田中　敏	紫波トークセッション
	川村　博昭	十日市公民館
◎	佐々木 忠夫	公募
○	佐藤　周子	なかよしひろば
	鷹木　嘉孝	上松本公民館
	田頭　善美	公募
	中田　芳子	公募
	細川　昭夫	行政区長協議会
	女鹿　明美	公募

◎委員長　○副委員長

図書館がつくる新しい町は？

●先人からのDNAを大切にした文化的な町
●地域の良さを発信！

●どんな人にもやさしいオアシスのある町
● 人口が増え続ける明るい町

考えをまとめるとすっきり

図書館で品のある町に

人も社会も町も健全な成長を続ける町

まとめていくうちにまた新たな考えが出てくる

健康でより良い人間関係

生産活動が活発になり豊かな町になりたい

●子どもから高齢者まで自由に集まれる
●自分らしく生きたい

委員会の理念

町民の図書館をつくろう委員会は、大きな視点で、これまでの概念にこだわらない自由な話し合いの場です。

町民の図書館をつくろう委員会は、まちづくりとの関わりを考えながら、紫波町らしい図書館を創ります。

「町民の図書館をつくろう委員会」開催中

町民の図書館をつくろう委員会と役場が協働して図書館づくりをします

町民の皆さんの意見を図書館づくりに反映するために、月１回のペースでワークショップによる話し合いを行っています。役場ではプロジェクトチームをつくり、町民の委員会と協働で、提供資料の収集、意見を具体化するための検討を行っています。話し合いの結果は図書館建設基本構想へ反映させていきます。

町民参加から町民主体のまちづくりへ

地区創造会議を始めませんか

地区創造会議は、町全体ではなくおおむね小学校区単位で地域の将来像を話し合う場です。コミュニティを地区単位で考え、多くの町民が参加できるようにするものです。

地区創造会議は、町民の皆さんの生活や身近な地域の環境を考えるきっかけになるとともに、町民自らの手によるまちづくりを可能にします。

地区の将来像を描くことで個性ある地域を育てていく話し合いをしましょう。

また、「地域に活気がない」、「一人暮らしの高齢者が心配」、「通学路が危ない」など地域にはさまざまな問題があります。行政だけで解決できない地域の課題を自ら考え、自らの責任で行動し解決していくのが地区創造会議です。地域に適したまちづくりのために、行政も企業も学校も、連携、協力して解決を図っていきましょう。

役場では、地区創造会議を各地区で進めるため、勉強会を開催する予定です。

十七年度 循環型まちづくり事業の成果

町では、町民、事業者との協働により循環型まちづくりのさまざまな事業を進めています。それは、百年後の子どもたちに現在の環境をより良い姿で残し伝えていくためです。前期計画の最終年度となる十七年度の計画に沿って進めた「循環型まちづくり」の成果についてお知らせします。

十七年度事業のあらまし

資源の再使用や再生利用を進め、環境に負荷をかけないよう循環させることを重点に取り組みました。また、十三年度の「環境・循環基本計画」を見直して「後期計画」を作りました。

2006環境・循環基本計画

十七年度の主な取り組み

＜食育専門部署の設置＞

「食」への関心が高まっている昨今、これまで以上に安心な食の推進に努めるために、十月から食育を専門に担当する食育推進主幹を配置しました。

＜ワイナリーの建設＞

新たな特産品として、地産地消のワイン製造のため、ワイナリーを建設し、ワインの仕込みを行いました。

ワイナリーの発酵タンク

＜バイオマスタウン構想の策定＞

有機資源の有効活用を図るため、バイオマスタウン構想を策定し、公表しました。県内では遠野市とともに最初に公表した自治体となっています。今後は、この構想に基づいた有機資源循環の取り組みをさらに推進していきます。

植林体験の様子

＜ペレットストーブの普及＞

公共施設にペレットストーブを設置するとともに、十六年度に整備したペレット製造施設を稼動させ、公共施設のペレットボイラーやストーブに木質ペレットを供給することで、森林資源有効活用の推進に取り組みました。また、ペレットストーブを設置した一般家庭には補助金を交付しています。このようなペレットストーブの普及が、森林の保全や育林・林業の再生に結びつきます。

家庭用ペレットストーブ

＜火災被害木材の再生＞

十六年度に火災に遭った虹の保育園の被害木材を活用し、ボランティアにより、「環境・循環ＰＲセンター」が紫波中央駅北側に建設されました。

＜ごみ減量活動への支援＞

現在、ごみとして出されている「無機資源」を削減するために、ごみ分別説明会の実施、地域での集団資源回収や、環境にやさしい取り組みを進める店舗（エコ・ショップしわ）の活動支援などを行いました。また、ごみ減量のため集団資源回収の対象に雑紙を追加し、ごみ減量の一層の推進を図りました。

集団資源回収

＜環境学習の実施＞

環境に対しての意識を高めるために、ＮＰＯ法人紫波みらい研究所と連携し、大人の経験を子どもに伝える、子どもの発見を大人に伝えるなどの世代間交流を図りました。

水質調査の様子

＜環境マイスターの養成＞

地域での環境保全・学習活動の推進を図るために、環境マイスター養成事業に取り組み、二十七人を環境マイスターとして認定しました。

環境マイスター養成講座

＜環境副読本の作成＞

身近な地域の環境を調べ、環境への理解を深めるための副読本「環境チェック＆ＤＯ」を作成しました。

十七年度に実施した、その他の主な事業は表1のとおりです。

また、十八年度の主要な事業は表2のとおりです。

表1　17年度循環型まちづくり事業の成果

	事業の名前　【　】は事業費・事業量
有機資源循環	**農林業情報管理・公開システム「紫波の食ナビ」の運営**【1式　37．7万円】 消費者と生産者の間に顔の見える関係づくり。
	えこ3センター関連【1式　40万円】 えこ3製品（堆肥、木酢液など）を農家やフルーツパークで実証試験。お花畑祭り開催で地域間交流を推進。
	安心の食の推進【1式　1，913．5万円】 えこ3堆肥を使って生産された町内産米や果菜を学校給食へ供給。食育関連講座を開催。
	ふれあい市民農園 農園（1区画50㎡）の貸し出し。えこ3堆肥を使用し、安心の食と有機資源の循環を推進。【40人　7，669㎡】
	ワインによる地産地消の推進【1式　1億8，360．4万円】 ワイナリーの建設とワイン醸造の開始。ワインセミナーと講座の開催。
	生ごみ減量化の取り組み コンポスター補助金【166基　33．2万円】／生ごみ用の水切りバケツ補助金【81個　4万円】
	産業廃棄物リサイクル処理 下水汚泥を緑化基盤材に活用（業者に処理委託）【1，089㎥　1，350万円】
	特産品の販売と「紫あ波せ」ブランドの確立【1式　130万円】 有機資源循環・地産地消の取り組みを宣伝するために、おかき・硬化餅・うどんなどの特産品の販路を拡大。
	バイオマスタウン構想の策定 町内のあらゆる有機資源（バイオマス）を有効に活用するために策定。
森林資源循環	**林道の維持管理**【1式　690万円】 林道29路線の維持管理により、森林の適正管理と維持管理作業条件が向上。
	ペレット製造施設事業【1式　255．3万円】 製材廃材、間伐材から木質ペレットを製造し、公共施設などを中心に活用。
	木質バイオマス利用促進 ペレットストーブ購入費補助【9基　9万円】／公共施設へのペレットストーブ設置【2基　113．4万円】
	町産木材利用の新築木造住宅に対する建設資金の利子補給と固定資産税の減免 利子補給【2件　10．3万円】／固定資産税減免【1件　4．3万円】
	間伐材等炭化施設の適正な運営【1式　429．7万円】 **間伐材利用のデリネーター導入**【100本　113．5万円】 除雪などで破損したデリネーター（視線誘導標）を、間伐材で修復。 **森林資源循環PR事業**　ビデオ「紫波の森が学校になった」を紫波サービスエリアで上映。
無機資源循環	**ごみ集積所整備事業補助**【6件　24万円】
	資源物保管施設整備事業補助【5件　35万円】
	資源リサイクル運動奨励補助【80団体　790t　379万円】
	地区別資源リサイクル奨励補助【9地区　33t　71万円】
	集団資源回収用雑紙袋作成【11，000袋　13万円】
	エコ・ショップしわ、マイバッグ運動を推進する紫波町ごみ減量女性会議の活動支援
	ごみ分別、野外焼却規制、省エネなど説明会の開催【18団体　486人】
	窓口来訪者への資源ごみリサイクルの普及推進（使用済封筒の利用）
	新規転入者へのごみ分別意識の啓発推進（ごみ収集カレンダーと指定ごみ袋配布）【304世帯　1万円】
	グリーン購入の推進（環境負荷低減に役立つ物品などの調達）
	町公共施設におけるエコオフィスの推進（資源ごみ分別や廃棄物排出抑制の徹底）
	道路整備事業への再生資材（砕石、アスファルト）の使用【整備延長　810m】
	日詰駅前地区土地区画整理での資材再利用と廃棄物適正分別の推進、循環政策の啓発活動
環境学習・創造	**環境マイスター養成および環境指標作成**【環境マイスター養成：27人　指標作成：500冊　1，176千円】 地域の環境保全・学習リーダーとなる人材を養成、身近な環境を評価する指標を作成。
	地域と学校の共同による環境学習事業【280人　10．5万円】 紫波一中のゆうごうセミナーで環境をテーマに体験学習を実施。
	環境学習・出前講座の実施【8団体　277人】
	自然との共生植林事業【90人参加　7．8万円】 17年11月12日、平成の森で開催 中学生を中心に一般公募により参加した町民が、森林の役割と自然との共生について学び、14年度から継続して植樹、育樹を行なっている「共生の森」の苗木補強を行なった。
	省エネ体験学習「Kids　ISO（入門編）」への取り組み【1式　37万円】 11小学校5年生：390人
	環境創造 **紫波まちピカ応援プログラム活動支援**【4団体　11．9万円】 道路や河川などの公共施設の清掃・美化を行なう団体の活動を支援。

その他関連事業	**地球温暖化防止** **地球温暖化防止エコチャレンジの推進補助**【1式　1．5万円】 地域ぐるみで3ヵ月間節電活動に取り組む25世帯以上の団体に補助。2団体 **住宅用太陽光発電導入促進事業費補助**【21件　188万円】 新エネルギー財団の補助事業、太陽光発電システムを設置する人に対して補助。 **紫波町エコオフィスの推進**【1式　20万円】 役場からの温室効果ガスの排出削減をめざし、省エネルギーシステムの構築と省エネ診断を実施。
	NPO法人紫波みらい研究所委託事業【1式　400万円】 **紫波地元学の実施**　環境探検隊事業2回、58人／デジタルカメラ環境探検隊写真展6回／地域伝承聞き取り保存事業 **地産地消の推進**　ワン･コイン･セミナー　24人　／　食のハーモニー　38人 **森林資源循環の啓発** 町内木造施設見学会　20人　／　間伐体験　24人
	NPO法人紫波みらい研究所「地域における伝承聞き取り保存事業」補助【1式　120万円】 16年度に聞き取りを実施した内容の冊子作成、配布　300冊 伝承聞き取り保存事業発表会の開催　2回、89人
	美しい紫波･四季彩交流の促進【1式　148万円】 ①紫波の四季を通じた観光コース確立とワークショップを継続 ②観光ボランティアを育成 ③仙台圏と盛岡圏を対象にした「循環型社会形成の町紫波町体験バスツアー」を開催 ④町民を対象とした「四季のバスツアー」を開催 ⑤銀河プラザ東京、ふるさと会、仙台で物産展
	環境･循環PRセンター建設事業【1式　765．4万円】 16年に火災に遭った虹の保育園の被害木材を再生利用、多くの事業所、町民のボランティアによる協力を得て整備。建築面積115.93㎡、被害木材使用量14.0㎥(60.8%)、ボランティア作業協力者45団体4個人(協力者数計124人、作業協力延人数327人／日)
	千年の森整備事業 佐比内地区「千年の森(環境学習森林公園)」の進入路と排水施設を整備。 測量設計業務：105.5万円　／　進入路整備工事：917.9万円
	後期環境･循環基本計画の策定･印刷【500部　152．3万円】 町が推進する循環型まちづくりの基礎となる環境・循環基本計画後期計画を策定。

表2　18年度循環型まちづくり事業計画

	事業の名前（青字は新規）
有機資源循環	**農林業情報管理･公開システム「紫波の食ナビ」の運営**
	えこ3センター関連 えこ3製品の実証、是信房のお花畑祭り、えこ3ブランドの確立
	安心の食の推進 食育推進計画の策定、学校給食などへのえこ3堆肥を利用した町内産米、町内産果菜類の供給
	自醸ワインによる地産地消の推進
	生ごみ減量化の取り組み　コンポスター補助金
	産業廃棄物リサイクル処理　下水汚泥を緑化基盤材に活用
	下水汚泥減量化実証実験 機能性セラミック導入による下水汚泥の減量化実証実験
	特産品の販売と「紫あ波せ」ブランドの確立
森林資源循環	**林道の維持管理**
	ペレット製造施設の適切な運営
	ペレットストーブ購入費補助(10,000円/基)
	町産木材利用の新築木造住宅等に対する補助と固定資産税の減免
	間伐材等炭化施設の適正な運営
	やすら木の学校づくり整備事業　木製机･いすの学校への導入
	道路維持管理事業　間伐材利用のデリネーター設置
無機資源循環	**ごみ集積所整備事業補助** (鉄骨造：3万円/件上限、木造：5万円/件上限、1/2補助)
	資源物保管施設整備事業補助(8万円/件上限、1/2補助)
	資源リサイクル運動奨励補助 (紙･金属･繊維類：5円/kg、びん類：2円/本)
	マイバッグ運動啓発
	エコ･ショップしわ、マイバッグ運動を推進する紫波町ごみ減量女性会議の活動支援
	ごみ分別、野外焼却規制、省エネ説明会の実施
	窓口来訪者への資源ごみリサイクルの普及推進 使用済封筒の利用
無機資源循環	**新規転入者へのごみの分別意識の啓発推進** ごみ収集カレンダーと指定ごみ袋を配布
	グリーン購入の推進
	町公共施設におけるエコオフィスの推進 資源ごみ分別や廃棄物排出抑制の徹底
	道路整備事業への再生資材の使用
	日詰駅前地区土地区画整理での資材再利用と廃棄物適正分別の推進、循環政策の啓発活動
	剪定枝粉砕機貸出事業　庭木の剪定枝を粉砕するチッパーを貸し出し、ごみ減量を推進する
環境学習･環境創造･ほか関連事業	**省エネ体験学習「Kids　ISO」への取り組み(入門編)**
	地球温暖化防止エコチャレンジの推進補助 (参加奨励：200円/世帯、節電奨励：100円/月･世帯上限)
	未利用エネルギーの公共施設への率先導入 保健センターへの太陽光発電設備の導入
	未利用エネルギー等導入促進事業費補助 太陽光発電、太陽光高度利用、ハイブリッド自動車などの導入に対して補助を行なう。
	紫波町エコオフィスの推進
	まちぴか応援プログラム活動支援 まち美化に取り組むことにより、地域への愛着など生活環境に対する住民意識の高揚を図る。
	環境学習･出前講座の実施
	自然との共生植林事業
	環境マイスターの養成および活動
	NPO法人紫波みらい研究所への循環型まちづくり委託事業 環境探検隊、地域聞き取り調査研究、食のワン･コイン･セミナー、食のハーモニー、町産木材を活用した公共施設見学会、間伐体験
	美しい紫波･四季彩交流促進事業
	地区公民館における環境関連事業 食育講座、親子エコ体験講座、地元学講座など
	平成18年度岩手県植樹祭 6月7日実施、1,000本の苗木を植樹、参加者800人

町はただいま花盛り

実りの前のフルーツや野菜の花はもちろん、家々の庭先の花々など、きれいな花が町にはあります。役場や駅にも善意の花が美しく咲きました。紫波にはいい堆肥もあるので、見るだけでなく育ててみませんか。

町の施設にたくさんのお花が贈られました

駅などにプランター百個

紫波総合高校（武田（たけだ）俶（あつし）校長　全校生徒六百六十二人）は、農業科の生徒が育てた花をプランターに寄せ植えし、紫波中央駅、警察署、役場に合わせて百個寄贈しました。寄贈した花は、ベゴニアドラゴンウイングという品種で、一、二年生が昨年十二月に種まきし、丹精込めて育てたもの。七月十四日に紫波中央駅で設置作業した同校三年生の男子生徒は、「花づくりは真心と愛情が大切です」と猛暑の中、汗を流しながら元気いっぱいに話しました。同校では、地域貢献活動として花の寄贈を毎年続けています。

紫波中央駅に運び入れる生徒

役場のフェンスに「花丸くん」

「花丸くん」ことフラワーボールが役場にお目見えしました。この花丸くんは、㈱グリーンフィールドと熊谷種苗店が町に寄贈したもので、専用の枠組みに花のポットを植え込み、ホースから点滴のように散水する仕組みの花飾りです。町を花できれいに飾り付けたいとして、来客の多い役場に交渉し七月十四日に取り付けられました。種苗店の熊谷利昭店長は、「訪れる人たちが明るい気持ちになってもらえればいいですね」と出来栄えに満足した様子でした。設置場所は、役場の国道に面した交差点側のフェンス上、皆さんも役場にお出での際は花丸くんをご覧ください。

フェンスが華やかに飾られました

花見情報

五郎沼のハスが大輪咲き

赤石地区の五郎沼にあるハスの花が開花しました。このハスの種子は、平泉町中尊寺に安置されている藤原泰衡の首桶の中から、昭和二十五年の調査で見つかり、平成十一年に中尊寺で開花に成功、十四年五月に五郎沼へ株分けされたものです。一八九年に秀衡の首は、陣ヶ岡蜂神社に陣を敷いた源頼朝へ届けられさらし首にされた後、密かに中尊寺金色堂に安置されました。その時、五郎沼に咲いていたハスの花を首桶にたむけられたと言われています。

環境に配慮した有機肥料を使ってみませんか

循環型のまちづくり

町内で集められた家畜排せつ物や生ごみを、えこ3センターで加工し、堆肥として販売しています。これは、町が進める環境に配慮した「バイオマスタウン構想」や「循環型まちづくり」の具体的な取り組みの一つです。また、盛岡･紫波地区環境施設組合でも製造･販売しています。

えこ3堆肥とボカシ堆肥を販売

えこ３センターでは、牛ふんともみ殻・稲わらなどを、紫波の土着菌を用いて完熟発酵させた「紫あ波せみらい堆肥」と、豚ぷん堆肥をベースに、魚かす・米ぬか・菜種かす・粉炭などをブレンドして低温熟成した「ボカシ堆肥（ペレット）」を販売しています。

畑や家庭菜園に使用すると、通気性や保水性が高まる土の団粒化など土壌改良剤としての効果や、有機物の分解による肥料成分の緩やかな放出など肥料としての効果などのメリットが期待できます。ぜひご利用ください。

●販売場所　ＪＡいわて中央グリーンセンター紫波　町内各産直
●価　　格　**牛ふん堆肥**　1袋（40ℓ 12kg）350円
※副資材にもみ殻を使用したため、軽く仕上がっております。
ボカシ堆肥（ペレット）　1袋（40ℓ 15kg）1,050円

大量にご使用の場合は、お得なバラ堆肥（4,000円/トン）があります。また、用途に応じて、より肥効性の高い豚ぷんや鶏ふんを完熟発酵させた堆肥も販売していますので、お問い合わせください。

問合せ●えこ3センター（土舘字和山173）　☎ 671−7878
FAX 671−7877

生ごみ堆肥を販売

盛岡・紫波地区環境施設組合は、家庭から排出された生ごみを発酵させて作った堆肥「田園有機」を販売しています。畑や家庭菜園に、ぜひご利用ください。

●販売場所　盛岡･紫波地区環境施設組合（矢巾町大字西徳田）
●価　　格　1袋（40ℓ 15kg）350円
※ 10袋以上購入の場合は希望により配達します。

問合せ●盛岡･紫波地区環境施設組合 ☎697-3835

証明書の自動交付機

12月からご利用できます

町では、住民票などの各種証明書が取得できる自動交付機の設置に向けて準備を進めています。自動交付機の利用開始は12月中旬からです。

●設置場所　役場1階ホール
●利用時間　8:30 ～ 20:00（年末年始を除く）
●取得できる証明書　住民票、印鑑証明書、戸籍謄（抄）本、戸籍の附票、所得証明書

自動交付機の利点

・窓口終了後も証明書が取得できます
・土日や祝日にも証明書が取得できます
・操作は簡単で、待ち時間が短縮されます
・申請書の記入が省略できます

利用には「住民基本台帳カード」が必要

カードがある人

すでに住民基本台帳カードをお持ちの人は、自動交付機を利用するための手続き（無料）が必要です。手続きは 11 月から受け付けます。

カードがない人

住民基本台帳カードの作成（手数料 500 円）が必要です。

問合せ●町民課　町民窓口室
☎672-6862 有線 01-8900

雪害倒木の整理に補助

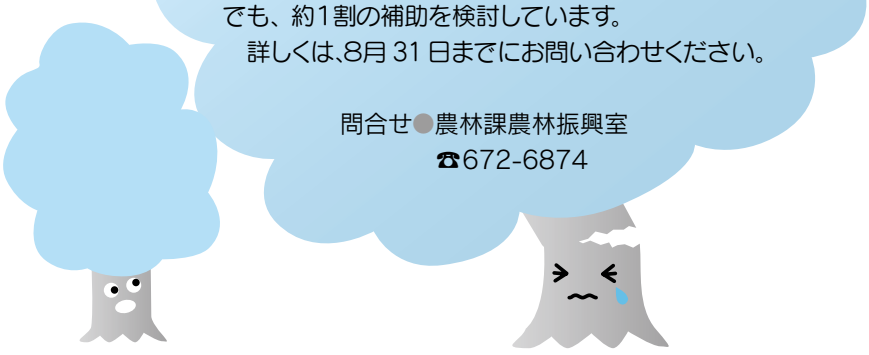
昨年末の大雪により、山林に倒木被害があった人に対し、その整理のための経費の一部を補助します。ただし、11 年生～ 35 年生年未満の人工造林であることが条件となります。

整理は間伐によって行い、伐採率は 21 ～ 24% 以上となっています。

国、県から、最大で約7割が補助され、さらに町でも、約1割の補助を検討しています。

詳しくは､8月 31 日までにお問い合わせください。

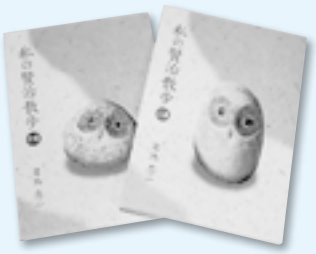
問合せ●農林課農林振興室
☎672-6874



町内出版本の紹介

日詰地区にお住まいで町文化財調査委員の菊池忠二さんは、宮沢賢治について執筆された本「私の賢治散歩」上下巻を発刊し、このほど胡堂文庫に寄贈していただきました。

問合せ●菊池忠二　☎672-2549



2006

まちのわだい

7/6 体験農園でサクランボ狩り体験

紫波フルーツパークは、サクランボの収穫時期を迎え、体験農園として本格的に始動しました。

この日、サクランボ狩り体験を行ったのは、町内にあるグループホームやすらぎの入居者ら九人。この日摘み取られたサクランボは、コウカニシキという品種で赤色が濃く、糖分が多いのが特徴です。同園では、ほかにも、ブドウ、リンゴ、ブルーベリーなどがあり、九月にはブドウ狩り（要予約）が楽しめるほか、ワイン工場がオープンする予定です。

真っ赤に熟したサクランボを摘み取る参加者

7/11 古館小がジャワ島に募金

古館小学校（菊池真校長　児童数六百九人）は、（財）日本ユニセフ協会が行うジャワ島地震緊急募金に現金約三万円を贈りました。この募金活動は毎年行われており、同校の五、六年生で組織するふれあい委員会（会員二十三人）がチラシを作製するなど全校児童に呼びかけました。同日は、県支部の藤原綾子事務局長と鈴木通子さんが同校を訪れ、代表の児童から小銭がぎっしりと詰められた箱が手渡されました。代表を務めた児童は、「恵まれない子どもたちの役に立てばうれしいです」と感想を話しました。藤原事務局長は、「学校の再建や予防接種に使わせてもらいます」とジャワ島の場所を地図で説明しながら感謝の気持ちを伝えました。

集めたお金を手渡す児童

7/15 料理を通じて和を感じる「男の食育講座」

古館地区公民館の「男の料理教室」のメンバーが、開講五周年を記念して「男の食育講座」を開きました。町長と町の食育担当者による講演の後に、参加者による意見発表が行われ、「米のとぎ方も分からなかった」、「退職をきっかけに参加した」などと、それぞれの思いを語りました。後半は、自分たちが作った料理を家族や講師に振る舞い、参加した三十人で料理の出来栄えなどに会話を弾ませました。会員の一人は、「妻の苦労が分かりました。料理を通じて人の和を強く感じます」と続ける理由を語りました。同教室は、五十歳から七十八歳までの十四人の会員で、毎月一回開かれています。

自分たちが作った料理を味わう参加者

7/16 釜石シーウェイブスが楽しさを指導

ラグビーのプロチーム、釜石シーウェイブスを招いてジュニアラグビーフェスティバルが行なわれました。町教育委員会と体育協会が主催するこの催しは、今年で五年目を迎える人気のイベントです。会場となった運動公園には、町内外から小中学生や父兄などおよそ三百人が詰めかけました。楽しませながら運動させる指導法に、見守る父兄からも「とても参考になる」と好評でした。子どもたちの引率で訪れた赤沢地区の藤原了さんは、「子どものころにいろいろなスポーツを体験することはいいことですね」と、同教室の良さを語り、赤石小三年生の児童は、「誰でもできそうでおもしろい」と生き生きとした表情で話しました。

捕まらないように体をかわす子どもたち

7/16 地区民運動会で地域が結束

地区民運動会が町内各地区で行われています。志和地区体育協会（小田島英二会長）は、上平沢小学校を会場に、同地区内十九カ所の自治公民館対抗で行われました。同運動会は、昭和二十八年から行われており、二歳から八十歳代まで約七百人が参加し、地域間交流が図られました。ゴール係を担当した紫波三中三年の女子生徒は、「普段は話さない年齢層の人と会話ができるし、お祭りみたいで楽しい。高校生になっても参加します」と明るく元気に話しました。

たる転がしの一コマ

7/20 世代間交流で犯罪のない町に

社会を明るくする運動紫波町実施委員会（藤原孝委員長）は、全国の運動期間に合わせて、ふれあいお茶会を開催しました。彦部小学校を会場に、同校一、二年生十三人と、地元の老人クラブや更生保護女性の会など約五十人に、紫波総合高校の茶道部二十人がお点前を披露しました。彦部小学校二年生の児童は、「飲み慣れたお茶よりも苦い」と顔をしかめながらも、飲み終えると「結構なお点前でした」と元気に話し、会場を沸かせました。同地区の佐藤ミサさんは、「若いときを思い出します。子どもたちとふれあいながらいただくお茶はおいしいです」と話しました。紫波総合高校三年の畠山なつみさんは、「いろいろな人と出会えて楽しかった。お茶に限らず、世代を超えたふれあいが犯罪抑止には大切なのですね」とひとときのふれあいに充実した様子でした。

高校生からお茶のたて方を教わる児童

7/23 かとうじ山の音楽会

かとうじ山こだまの会（瀬川正子会長）は、東根山のふもとにあるビューガーデンを会場に第四回かとうじ山音楽会を開催しました。同会の名前の由来となる藤原嘉藤治は、水分地区の生まれで同地区の開拓指導者。音楽家や詩人として優れ、宮沢賢治の親友として賢治の作品を世に出す中心的な人物でした。会場は、芝生に覆われた傾斜地に設置されたステージが、後ろに見える田園風景と重なり、高村光太郎が「天然の舞台」と評したところです。ステージでは、児童劇「カイロ団長（宮沢賢治作）」やコールあづまねの合唱などが行われ、訪れた片寄地区の主婦は、「景観が素晴らしい、嘉藤治の生い立ちを聞くことができて良かった」と自然と音楽の競演を満喫していました。

自然と一体になった舞台で歌うコールあづまねの皆さん

7/21 道路清掃ボランティアに感謝

橘建設株式会社（橘 冨雄社長）の社員二十八人が、ボランティアで同社前の町道田頭大坪線の清掃と、紫波一中前の町道希望ヶ丘線の破損デリネーター（視線誘導標）約百本の交換をしました。この活動は、日ごろから路上のごみと草の繁茂を気にかけていた社員間から、作業日を設けて地域貢献をしようという声が上がり、役場土木課に相談して実現しました。奉仕された社員の皆さまお疲れ様でした。

間伐材でできたデリネーターを取り付ける社員

7/27 町内小学校の水泳記録会

町小学校体育連盟（齋藤博司会長）が主催する第二十三回水泳記録会は、赤石小学校プールを会場に行われました。全六種目の競技に、町内各学校の五、六年生が二～三人ずつ出場し、熱戦が繰り広げられました。プールの外には大勢の父兄が詰めかけ、脚立に登ってカメラを片手に応援にも熱が入っていました。気温が上がらず練習不足の中、子どもたちのがんばりが効いたのか、この夏一番のプール日よりでした。

スタート直前の緊張の一瞬

第１回水泳記録会　募集

町初の水泳記録会、小学１年から一般社会人まで、一人２種目まで出場できます。

●日　時　8月27日㈰午前9時から
●会　場　紫波第一中学校プール
●参加料　一人200円
●申　込　8月20日㈰までに総合体育館にお申し込みを。
●問合せ　町水泳協会事務局　菅原啓悦
☎090-4557-0582

カクテルと料理の夕べ

町国際交流協会は、国際親善・理解の促進と各種事業を展開。

世界のカクテルを囲んで、そのルーツを学び語らいませんか。

◆日　時　9月2日㈯　午後6時～
◆会　場　ファミリーレストラン寿苑
◆費　用　3,500円
◆申込・問合せ　先着30人　町国際交流協会事務局（役場総務課）☎672-6868

胸キュンフェスタ 2006　募集

独身男女の出会いパーティー、町内か近隣に居住または勤務する20歳以上が対象。

■日　時　10月8日㈰午後1時から
■会　場　町勤労青少年ホーム
■費　用　男性3,500円　女性2,500円　（飲食代含）
■申　込　9月5日㈫消印まで有効
同ホームにある参加申込用紙で申し込みを。
■問合せ　町勤労青少年ホーム
☎676-2344　有線01-3134

食の県民カレッジ　受講生募集

食に関して知って得する情報が満載。

●日　時　8月22日㈫　10:00～15:40
24日㈭　10:00～15:00
29日㈫　9:00～15:30
●会　場　県民生活センター　盛岡市中央通3-10-2
●内　容　・野菜ソムリエによる講義と料理の実演
・いわちくによる食肉のおいしい話
・生産農家、食品製造施設見学と交流
●申　込　8月10日㈭まで　定員30人（受講料無料）
県環境生活企画室　0120-019-606
☎629-5322　FAX629-5334
電子メール　AC0008@pref.iwate.jp

「紫波自醸ワイン」９／１発売

紫波フルーツパーク・ワイナリーで醸造されたワインが発売されます。

町内産ワイン専用品種のブドウのみを使用した「地産地消ワイン」です。

初めて町内で醸造されたワインを飲んでみませんか。

●販売店　紫波フルーツパーク・ワイナリー、町内酒小売店
●問合せ　紫波フルーツパーク　☎676-5301

であい・ふれあい・めぐりあい

結婚を希望する独身男女の交流会です。

●日　時　9月9日㈯　午後5時から
●会　場　矢巾町公民館
●費　用　2,500円
●申込・問合せ　紫波町商工会女性部　☎672-2244

お忘れなく！「交通災害共済」

一人400円で加入できる交通事故の共済制度です。8月1日から新年度が始まりましたが、途中からでも加入できますので、未加入の人は手続きをお早めに。

●申　込　町内金融機関窓口（9／29まで）
●問合せ　総務課　消防安全室　☎672-6869

ちいさなお星さまの会

子どもを亡くされた（流産・死産・新生児死亡）経験のある人が集う会です。

■日　時　①9／2㈯　②11／11㈯　③1／20㈯
④3／17㈯　午後2時から4時まで
■会　場　県民会館第3会議室
■申　込　氏名、連絡先、よろしければ亡くされたときの状況や今のお気持ちを添えて申し込みを。
〒020-0193　滝沢村滝沢字巣子152-52
県立大学看護学部内
ちいさなお星さまの会事務局
電子メール info@ohoshisama.jp
FAX694-3232

新規学校卒業者対象の求人受付

19年3月に中学校・高校を卒業する人を対象とした求人受付が6月20日から開始されています。採用をお考えの事業主の皆さんは、お早めに求人の手続きをしましょう。

◆問合せ　ハローワーク盛岡　求人企画部門
☎624-8905

まちづくりボランティア「しわフェロー」の募集

紫波町経営品質会議では、まちづくりに参画するボランティア（経営品質評価フェロー）を募集。町勢モニターとして行政サービスの向上を目指して町の課題解決に取り組んでいただきます。

■活動内容　まちづくりへの提言／アンケート／セミナーや懇談会への参加
■活動期間　依頼日から1年間
■応募資格　町内に在住または勤務、就学する10歳以上の人
■応募方法　郵便番号／住所／氏名／生年月日／性別／電話番号／職業（勤務先・学校名）／電子メール（ある場合）／応募理由　を明記し、はがき・FAX・電子メールでご応募ください。（8月末締切）
■あ て 先　〒028-3390　紫波町役場　情報政策室
FAX672-2311
電子メール info@town.shiwa.iwate.jp
■問 合 せ　企画課　情報政策室
☎672-6887　有線 01-8891

都市計画審議会委員の募集

町の都市計画に関する事項を調査、審議する委員を公募します。

●募集人員　2人（任期　9月から2年間）
●応募資格　町内に居住または勤務する20歳以上で、ほかの委員でない人
●応募方法　申込書と「まちづくりへの課題」をテーマとした800字程度の小論文を提出
●募集期間　8月25日㈮まで
●問 合 せ　土木課　施設整備室
☎672-6889　有線01-8831
ホームページ
http://www.town.shiwa.iwate.jp

「町管理型浄化槽整備事業」相談会

浄化槽の設置を希望する皆さんの「個別相談会」です。
紫波ＰＦＩ浄化槽整備㈱が設計、見積りの相談に応じます。

◆日　時　8月26日㈯　午前9時から午後5時まで
27日㈰　午前9時から午後3時まで
◆会　場　役場第2庁舎（2階会議室）
◆対象地区　日詰9・14区／古館3・5～8区／水分3～6・8・10～13区／志和2・4～8・13・15・19～21／赤石1・2・5・7・11・13～17区／彦部1～3・9区／長岡1～7・9・10区の各行政区一部世帯と、佐比内、赤沢地区は全地区。
◆問 合 せ　下水道課　業務管理室
☎672-6890　有線01-3061

介護保険運営協議会委員の募集

◆活動内容　介護保険の運営に関する審議（年数回）
◆応募資格　町に住所を有する介護保険被保険者
◆募集人数　3人
◆任　期　3年
◆応募方法　住所、氏名、生年月日、履歴（最終学歴以降）、応募理由を記載し提出すること（様式は不問）
◆申込・問合せ　8月25日㈮必着
長寿健康課　介護保険室
☎672-4522　FAX672-4349

腹部超音波検診のお知らせ

肝炎ウイルス感染者対象の超音波検診。検診後に専門医による個別相談会を予定。

●対　象　C型肝炎ウイルス・B型肝炎ウイルスに感染している方
●日　時　8月26日㈯・27日㈰　午前7時から10時
●費　用　1,000円
●申込・問合せ　8月17日㈭締切
保健センター
☎672-4522　有線01-8991

総合防災訓練

地震災害を想定し、防災、生活関連、医療の各機関と、住民の皆さんによる400人規模の訓練です。参観は自由ですが、車両通行止め（サン・ビレッジ紫波周辺8:30～12:00）にご協力をお願いします。

■日　時　8月27日㈰　午前7時30分から
■会　場　岩手中央農業協同組合本所、サン・ビレッジ紫波
■内　容　災害応急対策、災害医療対策、救助、火災防御の各訓練
■問合せ　総務課　消防安全室
☎672-6869　有線01-8901

クマから農作物を守るために

クマの出没が予想されるほ場では、まず予防策です。早めの対策を講じましょう。
①ラジオを一晩中鳴らす　※住宅地では騒音に注意。
②ほ場に鈴や空き缶をぶら下げる　③カカシを立てる　④センサーライトを設置する　⑤ほ場のまわりを電気牧柵で囲う
駆除（捕獲）は予防策を立てたにも関わらず被害が発生した場合の最終手段であることをご理解ください。
◆問合せ　農林課　農林振興室　☎672-6874
町民課　生活環境室　☎672-6893

地元でとれた旬の野菜が並ぶ産直を訪ねました

地元の野菜などが購入できる農産物直売所「産直」は、夏本番を迎えて、取れたての旬の野菜が所狭しに陳列されています。

町の農業者人口は五年前に比べ、約一七・七％減少し、その九割以上が他に仕事を持つ兼業農家です。このような中、産直は全国的に増えており、町内に九カ所ある産直も、経営方法や商品が少しずつ異なるものの、減農薬や有機農業などへのこだわりから、パッケージや陳列方法に至るまでさまざまな工夫が見られます。町産直組合連絡協議会長の堀切眞也さんは「売れる作物を作るために、農家の人たちが今まで以上に考えるようになった」と語ります。『古館産直センター』は、農協店舗の女性部コーナーが前身で、現在も農家の主婦が中心となって営業しています。販売員の一人は、「家族が食べるものと同じ野菜を出しています」と話します。「最初は見た目が悪かったけど、作り方が上手になってきました」とも。農家の人たちが直接販売することで、より消費者を意識し、生産者の顔の見える安全・安心な農産物を提供しています。

『産直センター大巻』の生産者は「丹誠込めて作った野菜はすべて誰かに食べてもらいたい」と語ります。商品には生産者の名前を記したシールが張られ、値段も生産者自身が決めます。生産者毎に大きさや量が違っても、鮮度の良さと値段の安さが魅力です。また、同じ町内でも、それぞれに特色があり、商品も多様。峠の駅『紫波ふる里センター』は、県販売許可を得たハヤチネウスユキソウなどのめずらしい山野草が購入できます。『あづまね産直センター』は、花の苗や卵などが安く、秋にはラ・フランスが販売されるとあって人気です。『彦部産直楽々』は、土日営業でシイタケが豊富。『ルート396長岡』や『産直センターあかさわ』、『紫波ふる里センター』は、100％ジュースを年中販売、お盆の時期からブドウやリンゴがお目見えします。また、切り花を取り扱う産直は多く、野菜や果物にも劣らぬ人気商品です。

地元で取れた安全・安心で旬な野菜を購入できる九つの産直。生産者が直接販売しているので、おすすめ品や料理方法などを直接聞いてみるのも良いでしょう。思わぬ掘り出し物が見つかるかもしれません。皆さんも産直めぐりをしてみてはいかがでしょうか。

紫波ふる里センター

古館産直センターグリーンハウス

あづまね産直センター